

競技注意事項

1. 規則について

本大会は2021年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項、競技注意事項により実施する。

2. 練習について

別記4【第49回九州学生陸上競技選手権大会の競技場練習について】を参照すること。

3. 競技場使用の注意

(1)新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、以下の通りとする。

①更衣室とシャワールーム、ゴミ箱の使用を禁止する。

②声を出しての応援は、固く禁止する。

③競技場に入場できるのは、競技者、審判・補助員、指導者・コーチ・マネージャー等の大会関係者のみとする。

④新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、競技者は、競技時間に合わせて競技場に立ち入り、競技終了次第帰ること。競技場退出時には、すべての持参物を持ち帰ること。

(2)メインスタンドでの部旗・横断幕の掲出は禁止とする。

バックスタンドでの掲出は認めるが、解放時間は3日間を通して開門後とする。ただし、中央聖火台付近のロープで区切られた区域への侵入、部旗・横断幕の掲出は禁止する。掲出の際は必ず紐のみを使用し、ガムテープ等の使用は禁止する。

(3)競技場で生じた「ゴミ」は各大学でゴミ袋を用意し、清掃を徹底し、ゴミは各大学が責任をもって持ち帰ること。

(4)大会当日中の大学ごとの場所取り、スタンドの使用、またコーチングエリアについては、別記3「第49回九州学生陸上競技選手権大会の入場規制について」を熟読すること。

(5)開門前、閉門後に許可なく競技場内、スタンド内に侵入している大学を発見した場合、厳重に注意し、その大学の以降の出場を認めない場合がある。

(6)駐車は係員の指示に従い、久留米総合スポーツセンター内の駐車場またはリバーサイドパークの宮ノ陣橋下駐車場駐車にすること。ただし、バスなどの大型車については敷地内で乗り降りのみを行い、駐車場は、各自で確保すること。駐車しない車は混雑を避けるため、駐車場への侵入を禁止する。

(7)競技場は全天候舗装型であるため、使用するピンの長さは7mm以下、走高跳・やり投については9mm以下とする。

(8)当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技の出場を認めない場合がある。

- (9) 競技場内において競技者は助力と見なされるビデオ、カセットレコーダー、ラジオ、CD・MDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話、スマートフォン、もしくはそれに類似するものを使用する、または所持することも禁止する。勧告を受け入れられない場合は失格となる。なお、その他競技者に対する助力については競技規則第144条を適用する。
- (10) 医務室、救護室は競技場内に設ける。なお、大会期間中において起こった怪我に対しては主催者側が応急手当を行うが、それ以降の治療に対しては一切責任を負わない。ただし、出場者は原則として、スポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。必ず保険証のコピーを持参すること。なお、新型コロナウイルス感染症はスポーツ安全保険の適用対象外である。
- (11) メインスタンド下の競技場内通路は関係者以外の進入を禁止する。
- (12) スパイクで競技場内通路を通行することは厳禁とする。(なお、競技場内通路は正面出入口からゴール地点に向かって一方通行である。)
- (13) 貴重品の管理は各大学および各個人で責任を持って行うこと。盗難・紛失について主催者は一切責任を負わない。拾得物があった場合については、インフォメーション・センターにて一時保管する。
- (14) 開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。また、以下の記載開門時間より早く競技場内には立ち入らないこと。
- (15) 補助競技場は、改修工事中のため使用することができない。競技場内でのウォーミングアップについては、使用できる時間帯及びエリアについて改めて周知する。

期 日	開門時間	閉門時間
9月24日(金)	9:00	18:30
9月25日(土)	7:30	19:00
9月26日(日)	7:00	17:30

4. 招集について

- (1) 招集所は、第1コーナー外側に設置する。
- (2) 招集の方法について
- ※ 競技者は出場種目の招集開始時刻になり次第、招集所でシューズ、スパイク、ナンバー、商標の確認を受けること。(シューズに関しては、競技注意事項別記1「靴底の厚さに関するルール改定」を必ず確認すること。)
- ・スタート地点到着後に、各競技現地で最終コールを行う。
- (3) 代理人による招集は認めない。ただし、他の種目と招集時間および競技時間が重複する場合は、招集所に重複届を提出すること。
- (4) 混成種目の招集は2日間とも最初の1種目のみ招集所で行う。以降の種目については現地にて招集を受けること。混成競技者控室は男子が【フィットネスルーム】、女子が【南ロッカールーム】に設ける。

- (5)リレーのオーダーについては、メンバーおよびオーダーの変更の有無に関わらず、ラウンド毎にオーダー用紙(インフォメーション・センターに用意)をインフォメーション・センターと招集所の2カ所に提出すること。提出締切は招集完了時刻の1時間前とし、遅れた場合出場を認めない。怪我等によるこれ以降の変更は、主催者の任命した医務員の判断がない限り認められない。また、招集開始時刻になり次第、全員で招集を受けること。
- (6)商標について2021年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告・商標の規定」に従い、招集所にてチェックを行う。2020年度より商標に関する規定が変更になったので注意すること。
- (7)招集完了時刻に遅れた競技者は出場を認めないので十分に注意すること。
- (8)招集時間は競技日程を参照すること。

	トラック種目	棒高跳	その他フィールド種目
招集開始時刻	競技開始40分前	競技開始90分前	競技開始60分前
招集完了時刻	競技開始30分前	競技開始80分前	競技開始50分前

5. 欠場について

競技参加者の欠場については、大会の運営の円滑を期するため極力避けること。やむを得ず欠場となる場合は以下の要領で申し出ること。

- (1)大会3日前(9月21日)までに欠場が判明している場合は、本連盟ホームページより不出場届をダウンロードし、必要事項を記入の上、9月21日(火)15時までに本連盟事務所に提出すること。(FAXのみ可)
- (2)上記期日以降にやむを得ず欠場となる場合には、不出場届(インフォメーション・センターに用意)に必要事項を記入の上、招集所とインフォメーション・センターの2カ所に提出し、承認を得ること。なお、この手続きを行えば、その競技者は以降の競技に出場できる。
- (3)無断棄権に関しては、以後の大会の出場を認めないなどの厳しい処分を課す場合がある。

6. ナンバーカードについて

- (1)ナンバーカードは2021年度九州学連指定の登録ナンバーカードを着用すること。
- (2)ナンバーカードはユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は、胸・背のいずれかにつければよい。ナンバーカードの折曲げは禁止する。
- (3)トラック競技は写真判定機を使用するため、トラック競技者は主催者の用意する腰ナンバーカードを右腰やや後方に、数字が見えるようにつけること。ただし、男女3000mSC、男女5000m、男女10000m、男女10000mW、男女4×400mRについては両腰につけること。腰ナンバーカードは使い捨てのものを使用する。そのため、フィニッシュ後、係員に返却する必要はない。※第143条7・8・9項を参照のこと。

7. 競技の抽選・番組編成について

- (1)トラック競技の準決勝以降の組み合わせは、主催者が公平に抽選し、決まり次第招集所および速報サイト(本プログラムP.38)に掲載する。記録掲示板には掲示しないので注意すること。
- (2)トラック種目における次のラウンドへのプラス選出の際に、同記録が複数出た場合、写真判定により1000分の1秒まで拡大し、「着差あり」まで判定する。それでも判定できない場合には、本人または代理人によって公平に抽選を行い、決定する。ただし、1500m、3000mSCの場合は該当者全員が次のラウンドに進出できる。※競技規則第167条を参照のこと。
- (3)写真判定機故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動計時に変更する場合がある。

8. トラック種目について

- (1)不正スタートに関しては、競技規則「第162条7」の適用により失格とする。
- (2)スタートの合図は ”On Your Marks”、”Set” で行う。
- (3)短距離種目では競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。
- (4)リレー種目について
 - ①各大学同一のユニフォームを着用すること。この時、デザインが同じものを着用すれば、スパッツ、ランニングパンツの区別は設けない。
 - ②全ラウンドにおいて、最初に編成して申し込んだメンバーの中から**最低2名は出場しなければならない。**それ以外の2名はプログラムに記載のある選手であれば、予選ラウンドから出場できる。
 - ③次ラウンドにおける交代は2名以内でなければならない。なお、出場チーム数の都合上、単一ラウンド(決勝のみ)となった場合、次のラウンドに進んだものとする。※第170条10項参照のこと。
 - ④4×100mリレーに使用するマークテープは本連盟が用意したものを使用すること。マークテープは招集所にて配布する。※第170条4項参照のこと。
- (5)男子5000mについてはタイムレース決勝とする。
- (6)男女10000m、男女10000mWについては、給水を設置する。また、男女5000mについては、気象条件により設置する場合がある。
- (7)男女5000m、男女10000m、男女10000mWについては下記の設定時間でゴールに達しない選手は競技者がどの段階にあっても速やかに競技を中止させる。ただし、順位を決定させるため、上位8人がゴールするまでは下記時間に達しても競技を続行する。

男子		女子	
5000m	18'00"	5000m	21'00"
10000m	37'00"	10000m	42'00"
10000mW	55'00"	10000mW	65'00"

- (8)男女5000m、男女10000mについては当日の状況を見て、インレーン、アウトレーンへの振り分けを行う。役員の手配に従うこと。
- (9)男女5000m、男女10000m、男女10000mWについてはフィニッシュの際に、4レーンより外側のレーンでゴールすること。

(10)男女3000mSCについてはランニングシューズでの出場は認めない。

9. フィールド種目について

(1)跳躍種目のバーの上げ方は原則として以下の通りとする。

種目・種別	練習	バーの上げ方	
走高跳	男子	1m80、2m10	1m75-1m80(5cm刻み)-2m10-(3cm刻み)
	女子	1m40、1m60	1m35-(5cm刻み)-1m65-(4cm刻み)-1m69-(3cm刻み)
	十種	1m45、1m85	1m50(5cm刻み)-1m80-1m85-1m90-(3cm刻み)
	七種	1m15、1m50	1m20-(5cm刻み)
棒高跳	男子	3m90、4m40	3m80-3m90-(10cm刻み)
	女子	2m70、3m30	2m50-2m60-(10cm刻み)
	十種	2m80、4m00	2m30-(30cm刻み)-3m40-(20cm刻み)-3m80-(10cm刻み)

※同成績の場合は競技規則第181条8項を適用する。

(2)走高跳・棒高跳の練習の高さは当日、選手と審判員の協議により設定する。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・九州学連の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。

(3)走幅跳は、男女ともに2ピットで競技を行う。ただし、女子走幅跳は状況に応じて1ピットに変更する可能性がある。

(4)男子三段跳は2ピット(ともに13m)、女子三段跳は1ピット(ともに10m)で行う。ただし、女子三段跳は状況に応じて2ピットに変更する可能性がある。

(5)ジュニア規格の種目については各種目、一般規格と同時進行で競技を進め一般・ジュニアともにそれぞれトップ8を選出して決勝ラウンドを行う。

(6)2019年4月1日より跳躍に関する規定が変わったので十分注意すること。日本陸連「第180条総則 フィールド競技 試技時間」(陸上競技ルールブック2019 254ページ)～(前略)～つぎの試技時間は通常の場合超えてはならない。試技時間を越えたら第180条18を除き、無効試技として記録する。

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	<u>1分</u>	1分	<u>1分</u>
2～3人以上	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上、同一の高さのみ適用する。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	<u>1分</u>	1分	<u>1分</u>
2～3人以上	1分30秒	2分	1分
1人または連続試技※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※残っている競技者に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

10. 混成競技について

- (1)招集は、各日最初の種目に限り招集所にて行う。それ以降の招集は現地にて行うので、次の競技までは混成競技者控室にて待機し、競技役員の指示に従って行動すること。
- (2)混成競技者控室として男子が【フィットネスルーム】、女子が【南ロッカールーム】を使用する。該当種目の競技者及び競技役員以外の混成競技者控室への立ち入りは一切禁止とする。
* 競技者はマスクを着用し競技者同士のソーシャルディスタンスを確保の上、換気を十分に行うこと。
- (3)混成競技1日目(9月25日)終了後は、選手は混成競技者控室から全ての荷物を持ち退出すること。控室に私物を残した状態で帰らないこと。
- (4)跳躍種目は1ピットで行う。

11. 表彰について

- (1)新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模を縮小して実施する。今大会各種目の表彰状は、各日大会終了後に各大学の代表者がまとめて本部に取りに来ること。
- (2)閉会式終了後、成績の優れた男女1名を最優秀選手として表彰し、最優秀選手賞とトロフィーを本部前にて授与する。最優秀選手は、閉会式終了後、アナウンスにて招集する。
- (3)表彰対象者及び各大学の代表者は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、原則としてマスク等を着用して本部に賞状及びトロフィーを受け取りに来ること。
- (4)表彰式の実施については、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、変更することがある。

12. 用器具について

- (1)用器具はすべて競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用のポールについては、競技場備え付けのものがいないため、個人のもを持参すること。さらに、やり、円盤、砲丸、ハンマーについては、検定を受けて合格したものは、個人のもを使用してよい。各自が持ち込んだ棒高跳用のポール及びやり、円盤、砲丸、ハンマーについては、その他の競技者にも使用させなければならない。そして、持参した棒高跳用のポール及びやり、円盤、砲丸、ハンマーは、競技当日の招集開始時刻から招集完了時刻までに100m スタート付近の用器具倉庫にて検査を行う。ただし、使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者が責任を負うものとする。この場合、主催者はその責任を負わない。

- (2)新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、滑り止め(炭酸マグネシウム)については、共有しない方法で実施する。そのため、主催者は、滑り止め(炭酸マグネシウム)を用意しない。競技者は必要に応じて必ず滑り止め(炭酸マグネシウム)を持参し、使用すること。なお、松ヤニの使用は禁止する。
- (3)投てき器具については共用となるので、終了後の手洗い・洗顔を行う。また、競技中に不用意に手で顔を触らないよう注意する。

13. 抗議について

- (1)抗議は競技規則第146条に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから30分以内に、次のラウンドが行われる種目ではその結果が発表されてから15分以内に競技者自身または代理人が総務に申し出る。
- (2)審判長の裁定不服の場合には、その競技者に代わる責任者より上訴申立書と預託金(10,000円)を添えて、正式な手続きをとる。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

14. 商標について

2021年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告・商標の規定」に従い、招集所にてチェックを行う。2020年度より商標に関する規定が変更になったので注意すること。

15. 各書類提出先について

書類名	配布場所	提出先・依頼先
不出場届	インフォメーション・センター	招集所及びインフォメーション・センター
重複出場届	招集所	招集所
リレーオーダー用紙	インフォメーション・センター	招集所とインフォメーション・センター
記録証明書	インフォメーション・センター	インフォメーション・センター
上訴申立書	インフォメーション・センター(要預託金)	インフォメーション・センター(要預託金)

16. その他

- (1)記録証明書を希望する競技者は、300円を添えてインフォメーション・センターまで申し込むこと。
- (2)競技場内での写真、ビデオの撮影については選手のプライバシー及び肖像権を保護するため大会関係者及び主催者に許可された者以外の撮影は禁止する。盗撮防止のため、大会役員が声をかけることがあるが、その場合は速やかに許可証を提示すること。また、許可なく撮影している者を発見し次第、厳重に処分する。
- (3)新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、練習及び招集、競技中など本大会に関わるすべての行為について、競技者への付き添いを禁止する。

- (4)競技結果等は記録処理終了後に随時、本プログラム P.38 に掲載する大会速報サイトにて発表を行う。記録掲示は行わない。
- (5)主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を厳守し、個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の参加審査、プログラムの編成及び作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (6)ポールおよびやりの返送について
返送を希望する場合は、インフォメーション・センターにて大会3日目の15時までに輸送の手続きを行うこと。
- (7)加盟校は学生審判補助員を派遣しなければならない。
※以上の内容以外でも、特別に役員から指示があった場合必ず従わなければならない。
- (8)選手の競技場所への入退場は、第1ゲート・第4ゲートからとする。トラック競技ではゴール後、速やかに第1ゲート外側へ退場をするようにし、ゴールエリアで休息等をしないこと。
- (9)新型コロナウイルス感染症の状況により、競技注意事項ならびに競技運営方法に変更が生じる場合がある。

(別記1)

競技注意事項
靴底の厚さに関するルール改定

WA のルール改定に伴い、本連盟主催競技会についても以下に示す基準を満たしていないシューズを身に
着ける競技者の出場を認めない。

種目	ソールの最大の厚さ (TR5.5、注意(i)、(ii)、(iii)及び TR5.5 の図(a)並びに(b) TR5.13.3 に基づく)	補足
800m 未満のトラック種目 (ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が 適用される。
800m 以上のトラック種目	25mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が 適用される。

TR5.13 注意

- (i) 規則 143 条(TR5)13(a)の「1 つの剛性プレートまたはブレード」は、複数のパーツで構成される場合があるが、それらのパーツは、平行ではなく(例:個々のパーツは互いに上に積み重ねない)、1 つの平面に連続して配置しなければならない。※現行のルールブックに掲載の内容と変更なし。

(別記2)

競技注意事項 加盟校の皆様へのお願い

本年度は大会要項(別記)でお示した通り、新型コロナウイルス感染予防対策に則り、競技会を運営していくことを了承の上、大会にご参加ください。また、各大学が示している課外活動に関するガイドライン等を遵守し、参加について判断するようお願いいたします。なお、新型コロナウイルスの感染防止対策には万全を期しますが万が一、感染してしまったとしても、主催者は責任を負うことができませんのでご了承ください。

大会要項(別記)の「第49回九州学生陸上競技選手権大会 新型コロナウイルス感染症への留意点」に加え、以下の留意点につきまして遵守していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

1. 体調管理について

(1) 大会への参加について

各大学は、参加者全員(審判補助員、競技者、参加申請した指導者・コーチ)に大会前と大会後の「**体調管理チェックシート**」を記入させ、体調の把握をしてください。なお、体調不良者は競技会に参加させず、競技場にも来場させないでください。**また、参加者(指導者、スタッフを含む)については、県内、県外を問わず、可能な限り、大会参加日の1週間以内(できるだけ直前の検査が望ましい)に「PCR検査」または「抗原検査」を受けて、参加することが望ましい。**

(2) 競技会参加のための健康チェックシート【提出用】について

大会当日の学校受付時に、各大学代表者は大会主催者が用意した「**競技会参加のための健康チェックシート【提出用】**」を、テクニカルインフォメーションセンターに提出してください。提出がない場合は、競技会への参加を認めません。

(3) 体調管理チェックシート大会前【保管用】について

各大学は、2週間分の「**体調管理チェックシート大会前後【保管用】**」を作成、収集し、本連盟が提出を求めた場合には、遅滞なく提出できるようにしてください。なお、最後に記入した日から最低1カ月間は各大学で保管してください。また競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合、保健所、主催者へ報告するようお願いいたします

***「体調管理チェックシート」、「競技会参加のための健康チェックシート」は
本連盟ホームページからダウンロードすること。**

2. 参加者が競技を行う際の留意点

(1) 基本的注意事項

- ① 招集所では他の競技者とのソーシャルディスタンスを確保し、必ずマスクを着用して招集を受けること。
- ② 競技場内外を問わず、唾や痰を吐く行為は行わないこと。
- ③ タオルの共用はせず各自で持参すること。
- ④ 待機場所では、周囲の人とソーシャルディスタンスを確保し大声で会話をしないこと。
- ⑤ 競技中などに競技者が倒れた場合は直接触れることをせず、医務室や大会本部へ連絡すること。ただし、緊急を要する場合は、その限りではない。

(2)トラック競技

- ①レース中はマスクを着ける必要はないが、招集中・移動中・待機中は着用すること。なお、マスク着用による熱中症にも注意すること。
- ②レース終了後の手洗い、洗顔等を徹底すること。

(3)フィールド競技

- ①待機場所における競技者同士のソーシャルディスタンスを確保すること。
- ②投てき器具については共用となるので、使用後は手指消毒を徹底すること。また、競技中に不用意に手で顔を触らないよう注意すること。なお、終了後には入念な手洗いや手指消毒を行うこと。
- ③助走練習、投てき練習時には、ソーシャルディスタンスを確保するために競技役員が1人ずつ順番に呼び出すので、その指示に従うこと。
- ④競技者同士の会話は原則として禁止する。試技以外の待機中は、必ずマスクを着用すること。なお、マスク着用による熱中症にも注意すること。

3. 感染予防対策についての留意点

(1)マスク等の準備

入場時に競技会参加者がマスクを準備しているか確認する。入場時にマスクを着用していない者は、競技場内への入場を許可しないので注意すること。参加者が、運動・スポーツを行っていない間、特に会話するときには、マスクの着用を指示する。

(2)手洗いの実施

- ①手洗いは、30秒以上行うこと。石鹸は競技場にも準備する。
- ②手をふくためのタオル等を共用しないこと。
- ③手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を使用しこまめに消毒すること。競技場にも準備するが、できるだけ各自で持参すること。

(3)洗面所(トイレ)の使用

- ①トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、水洗トイレのレバー)を使用した場合は、こまめに手洗いをすること。
- ②トイレの便器に蓋がある場合は、必ず蓋を閉めて汚物を流すようすること。
- ③手洗いは、石鹸等を使用し30秒以上行うようにすること。
- ④手をふくためのタオル等は各自で準備すること。

(4)その他

- ①宿泊施設や公共交通機関等の移動においても3密の回避など感染予防を徹底すること。
- ②競技会へ出場する選手のみでの参加とするため、応援、付き添いのためだけの者は来場させないこと。
なお、集団での場所取りや声を出しての応援は固く禁止する。
- ③集団で場所取りをしての応援や、掛け声または声を出しての応援は固く禁止する。
- ④コーチがコーチングエリアから競技者に向かって話す際は、マスク着用の上、話すようにすること。

(別記3)

競技注意事項

第49回九州学生陸上競技選手権大会の入場規制について

本大会は、日本陸連のガイドライン「II 競技会開催にあたっての配慮事項 1. 感染防止対策を講じること(8)競技役員と競技者の動線をできる限り分ける。」に、以下に則り入場規制を実施する。よく熟読すること。

【スタンド入場可能者について】

9月15日(水)23:59締め切りの来場者名簿に名前があり、提出された者。

本大会は、無観客とし、選手・学生審判補助員・指導者コーチ・陸協審判・学連関係者・報道関係者のみの立ち入りを可能とする。

【大会当日の入場方法について】

大会期間中(9/24～9/26)は、1日目 8:30より、2日目 7:20より、3日目 7:00よりゲートB・Cにて受付を実施する。参加校の代表者1名は、受付にてネームプレートを受け取り、来場者名簿に記載した部員に配布すること。なお、ゲートBは北部九州(福岡・佐賀・大分・長崎)ブロックの大学、ゲートCは南部九州(熊本・宮崎・鹿児島・沖縄)ブロックの大学の受付とする。

本大会、ネームプレートの着用がない者はスタンドへの立ち入りを禁止する。

【スタンドの区分けについて】

・競技者、指導者(コーチ・マネージャー含む)→D・E・⑥より入場可能

・審判・補助員→⑤・⑩より入場可能

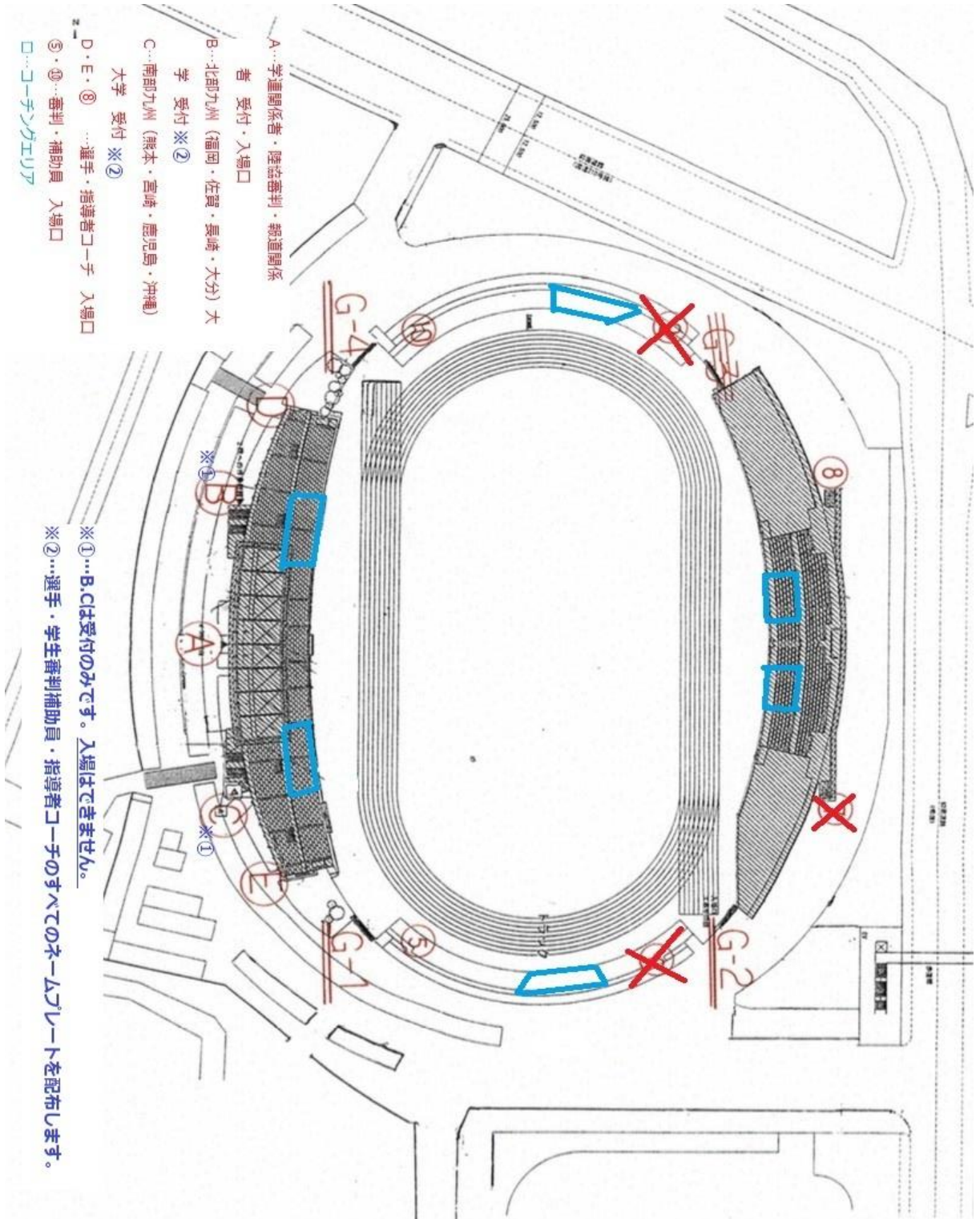
※詳細は競技場図に記載。

ただし、スタンドでは、集団での応援、場所取りは厳禁とし、コーチングについては指定されたエリアを使用すること。自分の立ち入り可能エリアにて、個人で待機すること。

また、スタンドの入場口にて検温を毎日実施する。この時に、37.5℃未満であればシールを配布するので必ずネームプレートに着用すること。

※チームでの場所取りは、メインスタンド下通路のみ可能。(ただし、ガムテープや養生テープの使用は固く禁止する)

競技場図



(別記4)

競技注意事項

第49回九州学生陸上競技選手権大会の競技場練習について

(1)①ウォーミングアップ及び練習は、本陸上競技場を使用すること。

②補助競技場は、改修工事中のため使用することができない。

(2)練習場の使用については、すべて競技役員の指示の従い、安全に留意すること。

(3)①本競技場内における練習使用時間は次のとおりとする。

※ただし、1日目に行われる開会式は11:30より行われるので開会式の時間帯は練習を禁止とすること。

日付	時間
9月24日(金)【大会1日目】	9:00～16:30
9月25日(土)【大会2日目】	7:30～16:00 ※(3)②
9月26日(日)【大会3日目】	7:00～15:30 ※(3)③

②9月24日(土)の9:30～10:10、12:25～12:40、14:50～15:00の時間帯は、バックストレート(100m、110mH、200mがバックストレートで行われる場合は、ホームストレート)に限る。

③9月25日(日)の9:00～11:20、12:50～13:00、14:00～15:00の時間帯は、バックストレート(100m、110mH、200mがバックストレートで行われる場合は、ホームストレート)に限る。

(4)前日練習について

前日練習における、本陸上競技場の使用は禁止とする。

(5)本陸上競技場について

①本陸上競技場における練習については左回りとし、トラック内での逆走は禁止する。

②ハードルの使用については、110mHは8レーン、100mHは7レーン、男子400mHは6レーン、女子400mHは5レーンを使用すること。その他のレーンでハードルを使用することは禁止する。

③スターティングブロックを使用する際は周りに注意を払い、安全に注意すること。

④競技場内での密による感染拡大防止、また事故防止のため、当日に競技が行われる種目の練習を優先し、役員の指示に従い、安全に留意して行うこと。

(6)投てきの練習について

①公式練習については、投てき審判の指示に従い、競技開始前に行うこと。

②助走練習、投てき練習時には、ソーシャルディスタンスを確保するために、競技役員が1人ずつ順番に呼び出す。

- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、滑り止め(炭酸マグネシウム)については、共有しない方法で実施する。そのため、主催者は、滑り止め(炭酸マグネシウム)を用意しない。競技者は必要に応じて必ず滑り止め(炭酸マグネシウム)を持参し、使用すること。なお、松ヤニの使用は禁止する。